

肝機能障害について (肝炎の疫学)

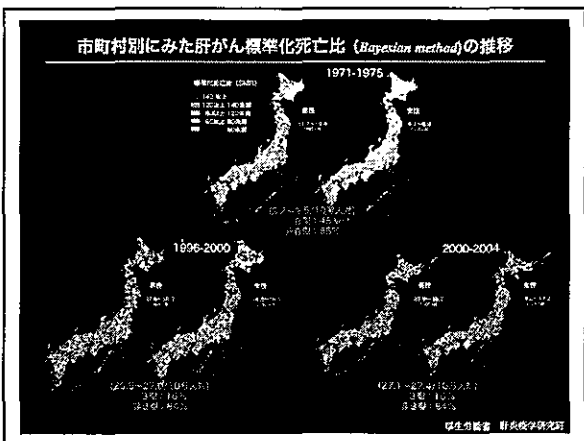
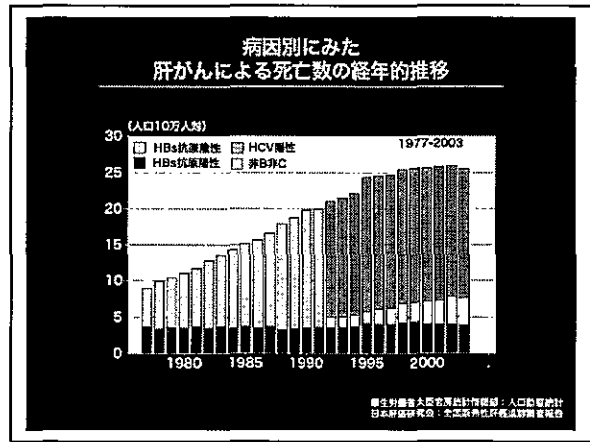
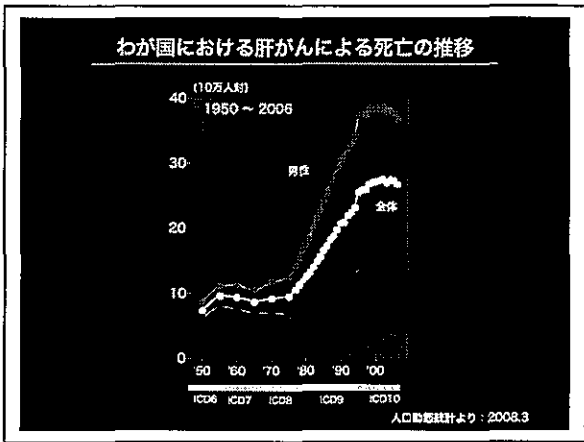
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 疫学・疾病制御学

田中 毅子

2008.11.17

ウイルス肝炎の病型と病原ウイルス

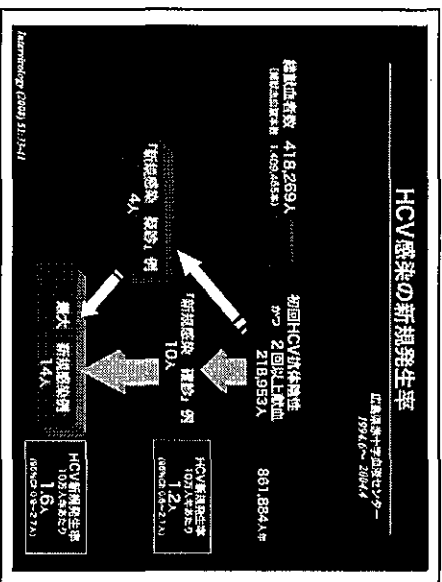
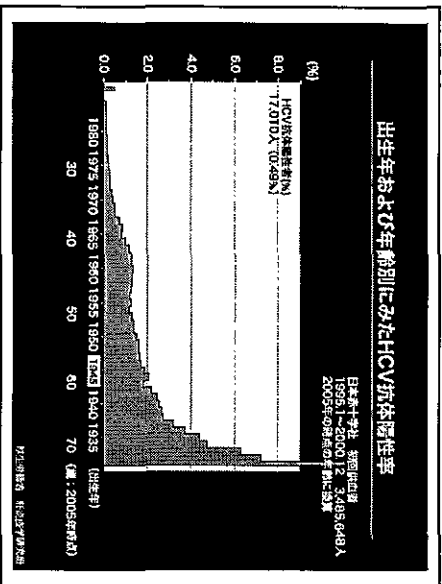
病型 (旧名)	ウイルス	感染経路	慢性化の有無 (持続感染)	肝癌との 関係の有無
伝染性肝炎 (流行性肝炎)	A型 (HAV)	経口	無	無
	E型 (HEV)	経口	無	無
血清肝炎	B型 (HBV)	血液	有	有
	C型 (HCV)	血液	有	有
デルタ肝炎	D型 (HDV)	血液	有	?



初回供血者における出生年、年齢別にみた HBs抗原陽性率 および HCV抗体陽性率

	日本赤十字社 初回供血者数	HBsAg 陽性者数(%)	HCV抗体 陽性者数(%)
1995~2000年 献血群 (1995.1~2000.12)	3,485,648人	22,018人 0.63%	17,010人 0.49%
		95%CI (0.62~0.64)	(0.48~0.50)

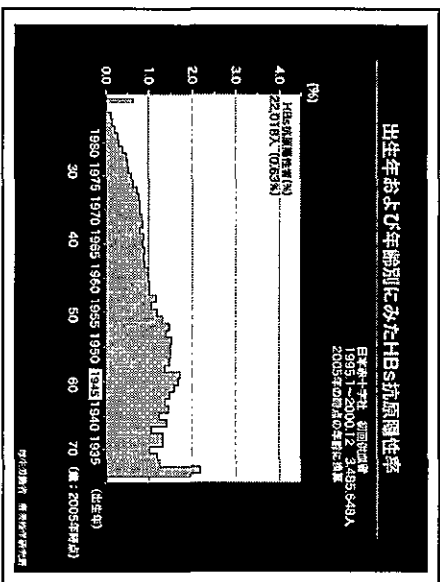
厚生労働省 がん疫学研究所



HCV感染の新規発生率

地域	1992~1995	1992~1997	1992~1995	1998~1992
広島	114,266	448,020	3,079	678
広島	3	59	0	0
新規発生率	168,726	1,095,668	6,786	2,712
Incidence	1.8/10万人年	5.4/10万人年*		
95%CI	0.4-5.2	4.1-7.0	0-0.6	0-1.3

抗体陽性率



B型肝炎ウイルス (HBV) 母子感染予防の実績とキャリア化阻止率の年次推移

出生年	検査数	キャリア化阻止率 (%)
1980	8	19 (84.7)
1981	19	16 (84.7)
1982	25	24 (96.0)
1983	35	34 (97.1)
1984	85	83 (97.5)
Subtotal	172	166 (96.5)
キャリア化阻止率	94	85 (90.4)
1985	85	85 (100.0)
1986	84	84 (100.0)
1987	85	85 (100.0)
1988	85	85 (100.0)
1989	83	83 (97.6)
1990	93	91 (93.8)
1991	90	90 (95.7)
1992	84	84 (100.0)
1993	74	74 (97.7)
1994	81	80 (98.8)
1995	57	57 (100.0)
Subtotal	764	729 (95.4)
Grand Total	1,030	990 (95.1)

抗体陽性率 (抗体陽性率)

HBV母子感染防止事業開始前後に出生した児童におけるHBs抗体陽性率、抗体陽性率の推移

出生年	検査数	抗体陽性率 (%)	抗体陽性率 (%)
1976	2,666	28 (1.05%)	52 (1.95%)
1977	4,212	27 (0.64%)	72 (1.71%)
1978	3,559	25 (0.70%)	35 (0.98%)
1980	10,437	78 (0.75%)	159 (1.55%)
Subtotal	25,412	12 (0.47%)	30 (1.18%)
キャリア化阻止率 (1976~1980)	1,584	4 (0.25%)	17 (1.04%)
1981	3,847	6 (0.16%)	58 (1.51%)
1982	6,206	11 (0.18%)	58 (0.93%)
1983	6,524	13 (0.20%)	49 (0.75%)
1985	20,812	46 (0.22%)	155 (0.73%)
Subtotal	6,775	3 (0.04%)	41 (0.61%)
1986	8,505	4 (0.05%)	62 (0.73%)
1987	8,310	2 (0.02%)	59 (0.70%)
1988	8,456	2 (0.02%)	64 (0.76%)
1989	8,023	1 (0.01%)	57 (0.71%)
1990	32,049	12 (0.04%)	274 (0.85%)
Subtotal			

抗体陽性率 (抗体陽性率)

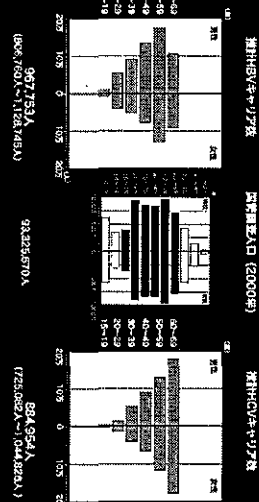
HBs抗体が陽性であった県域におけるHBe抗体陽性率の推移

出生年	HBs抗体陽性数 / HBs抗体陽性数 (%)	HBe抗体陽性数 (%)
調査区 (1975-1980)	40 / 64	49 (81.6%)
1979	64 / 72	72 (88.9%)
1990	23 / 34	34 (76.7%)
Subtotal	127 / 185	185 (81.8%)
調査区外 (1981-1990)	23 / 32	32 (76.7%)
1981	8 / 12	12 (75.0%)
1982	6 / 8	8 (62.5%)
1983	18 / 18	18 (100.0%)
1984	58 / 58	58 (100.0%)
1985	12 / 12	12 (100.0%)
Subtotal	68 / 197	197 (100.0%)
全国調査区 (1985-1990)	10 / 41	41 (24.4%)
1985	10 / 51	10 (19.6%)
1986	19 / 56	19 (33.9%)
1987	8 / 46	8 (17.4%)
1988	9 / 48	9 (18.8%)
1989	6 / 67	6 (8.9%)
1990	58 / 62	58 (93.5%)
1991	7 / 42	7 (16.7%)
1992	2 / 12	2 (16.7%)
1993	5 / 55	5 (9.1%)
1994	3 / 55	3 (5.5%)
Subtotal	58 / 538	111 (20.6%)

わが国の人口ピラミッドと

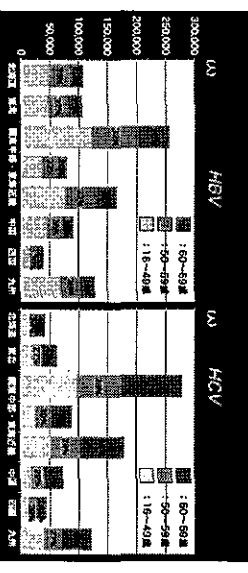
年齢階級別にみた推計HBVキャリア数、HCVキャリア数

・ 自然増加がないまま推定している15～69歳の年齢層における推計値

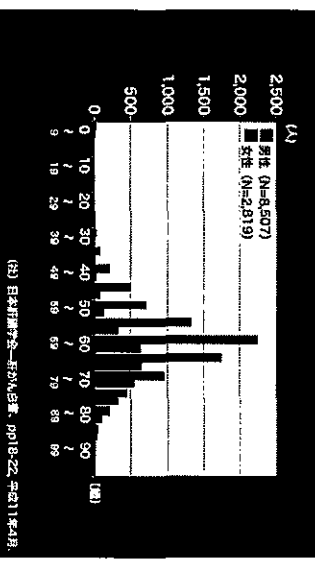


地域別・年齢階級別にみた推計HBV・HCVキャリア数

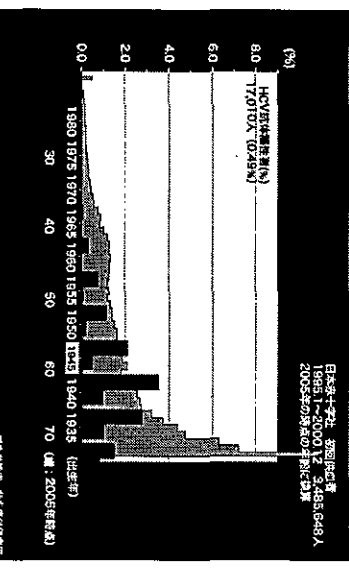
HBV・HCVキャリア数は関東、近畿、九州地区の50歳以上の年齢層に存在する



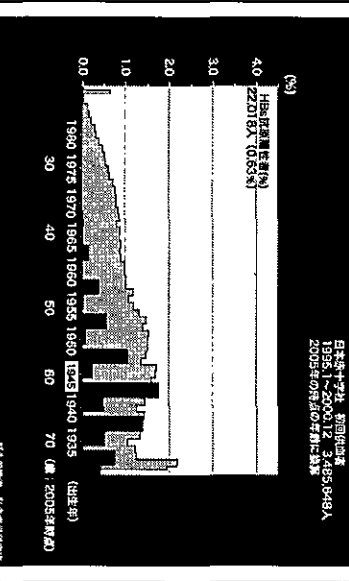
臨床的に原発性肝がんと診断された年齢

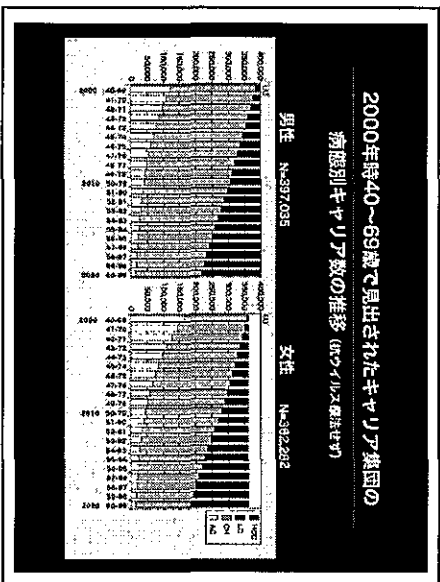
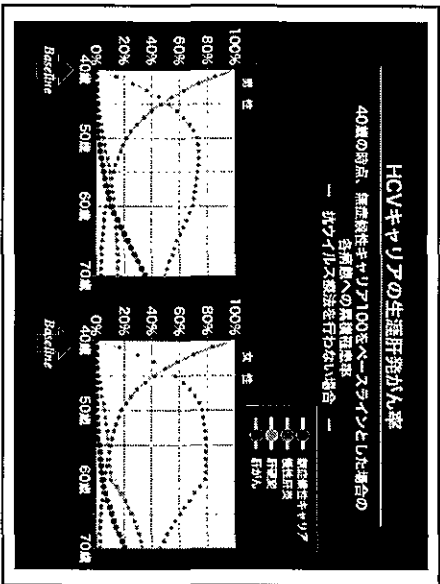
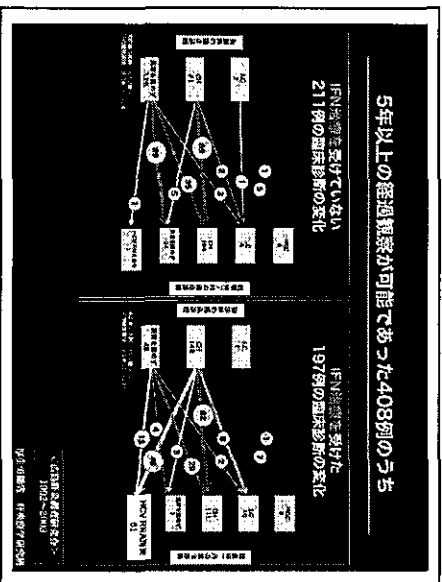
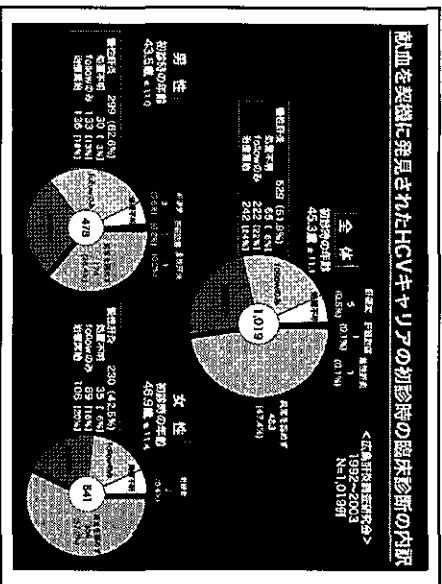


出生年および年齢別にみたHCV抗体陽性率



出生年および年齢別にみたHBs抗体陽性率





肝炎ウイルス検査

期：平成14～18年度 (2002.4～2007.3)

目的：肝炎による健康被害の回避
肝がんの予防、早期発見による肝がん死亡の減少

対象ウイルス：C型肝炎ウイルス (HCV)
B型肝炎ウイルス (HBV)

実施方法：初回検診 40歳から70歳まで各検診
初回以降検診 肝炎ウイルス感染のリスクが高いと
考えられる集団

①B型肝炎ウイルス検査	検査数	8,704,587
②C型肝炎ウイルス検査	HCVキャリア数 (%)	100,983 (1.2)
③B型肝炎ウイルス検査	検査数	8,634,569
	HCVキャリア数 (%)	99,550 (1.2)

